

小学校校長による教材研究—1枚の写真を通して

地域の人に支えられる校庭の樹木

作成：荒木俊夫（あらき としお／前武蔵野市立井之頭小学校，現武蔵野市立第三小学校 校長）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）*

語り：「金木犀（キンモクセイ）の木の下に何か敷いてあります。実は、キンモクセイのオレンジ色の花が散って、オレンジ色の美しい良い香りのじゅうたんができたのです。

この光景が見られるのは、秋の一日に限られます。用務員さんに、掃除をしないように踏まないようお願いしています。通る人も踏まないように注意してくれます。

誰よりも喜ぶのは、一年生です。見るなり、歓声をあげます。生活科の学習で花びらを収穫します。香りをかいでみたり、観察したりします。

このキンモクセイは、本校卒業生の保護者であった池田さんが、昭和40年に3人のお子さんが無事に卒業できた記念に寄付してくださったものです。実はこのキンモクセイには、兄弟がいて、池田さんの自宅にも同時に植えたそうです。ご自宅のキンモクセイも見せていただきました。本校のキンモクセイは巨木といってもよいほどに生長しました。池田さんの庭のキンモクセイもかなり



◀校庭の大きなキンモクセイ

大きいのですが、シュロなどの庭木にじゃまされて、学校のと比べるとやや小ぶりでした。それでも人の目を引くほどの大きさです。この木のすぐ前には、「千と千尋の神隠し」でおなじみの宮崎駿さんの事務所があります。いつか兄弟のキンモクセイについて作品に描いてくださるかもしれないと期待しています。

今、この学校には池田さんのお孫さんが、4年生で在籍しています。おじいさんのキンモクセイに見守られて、学習し生活しています。」

意図（荒木）：学校の樹木は、主に地域・保護者の皆様が「子どもたちが健全に成長しますように」という願いのもとにたくさん寄付していただいています。一本一本の木には歴史があり、地域・保護者の願いがこもっています。こうしたことを理解しながら、校庭の樹木に接して学んでほしいと思います。そうした願いを知ることでよい子に成長できると思います。

寸評（山下）：前回（3月号）は「校庭の樹木の教材化」を特集したが、今回も引き続き校庭の樹木に着目した教材である。子どもの成長を樹木の生長と重ねて願う地域の人の心が伝わってくる。樹木は人の心と一体化し、人との対話や交流が始まる。対話や交流の積み上げがやがて文化現象として共有化されることになる。こうした心にかかわる側面も森林環境教育では大切にしなければならない。

*山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）